

香川県立文書館

■企画展示と古文書解説講座

香川県立文書館では、平成23年度に開催した企画展示と古文書解説講座についてのポスター・チラシ類を展示した。いずれも当館の普及活動の主たるものである。

企画展示「アーカイブズ展2011」は、当館収蔵の「公文書」「古文書」「行政資料」の歴史資料としての特性を紹介するとともに、文書館の役割について県民の理解を深める機会となることを目指して企画したもので、今後も継続して年1回展示品を変えて開催する予定である。

企画展示「近世讃岐の島と浦」は、県内の海浜地域に伝わる古文書から、漁業・海運・製塩など海辺の暮らしに関するものを展示した。当館では、開館以来県内各地に伝わる古文書を収集・整理するとともに、その調査研究を行っており、その成果を企画展示として公開している。

古文書解説講座は平成23年度に計9回（初級・中級・上級各3回）開催している。また県内市町教育委員会との共催で古文書出前講座を5会場で計24回行っている。

そのほか今回の展示では刊行物の展示も行った。開館以来『香川県立文書館紀要』は第15号まで、『香川県立文書館収蔵文書目録』は第13集まで発刊しており、史料集『高松藩御令條之内書抜』も上下巻を刊行している。



当館の設置目的には「歴史資料として重要な公文書、古文書その他の記録を収集・整理・保存し、県民の皆さんに利用していただく」と「これらに関連する調査研究を行い、本県における学術の振興及び文化の向上に資する」ことが掲げられている。利用者にとって魅力ある文書館を目指して、普及活動の充実をはかるとともに、その基盤ともなる調査研究活動に取り組んでいることを、今回ポスター展示を通じて示したものである。

(嶋田典人)